



五小だより

No.13



令和2年11月17日 館林市立第五小学校

交通事故に気を付けましょう

朝晩の冷え込みで、冬の到来を感じるようになりました。全国的には、新型コロナウイルスの感染流行「第3波」に入ったと報道されています。引き続き、インフルエンザを含めた感染症予防・対策をお願い致します。

皆さんもご覧になったかもしれませんが、最近公表された交通安全に関するデータを二つ紹介します。一つは、「**自転車事故が多い都道府県ランキング**」です。群馬県は、静岡県に次いで全国第2位で、自転車1万台あたりの事故件数が約21件。さらに、中学生・高校生の通学時の事故件数は全国ワーストということです。館林市でも、9月に中学生が自転車で下校中に自動車と衝突し、大けがを負っています。小学生のうちから、自転車の安全な乗り方を身につけられるよう、ご家庭でもご協力をお願い致します。

二つめは、「**横断歩道に人がいるときの自動車の一時停止率（都道府県ランキング）**」です。群馬県は、13.9%で第37位でした。最も停止率の高かった長野県（72.4%）と比較すると五分の一以下です。登校時に西門で立哨指導をしていると、いろいろな自動車（運転手）を見かけます。横断歩道近くの児童を見かけると必ず停止してくれる車、スピードは緩めながらも通過してしまう車、中にはほとんどスピードを落とさずに通り過ぎる車もあり、危険を感じざるを得ません。長野県との違いは何なのでしょう。長野県の一時停止率が高い理由の1つは、停止してくれた車の運転手に対して、頭を下げてお礼をする習慣が子どもの頃から身につけているからだそうです。自動車は、一時停止するのは義務なので当たり前の行為ですが、お礼を言われれば次も気持ちよく止まることができるのだと思います。このニュースを見てからは、立哨指導の際に、私が頭を下げるのではなく、子どもたち自身に運転手に対してお礼を言うように指導しています。いつか長野県のような交通マナーが広がることを願います。

修学旅行 ～日光に行ってきました～

11月5日（木）に、6年生が修学旅行へ行ってきました。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、方面を日光に変更し日帰りで実施しました。午前は日光東照宮及び周辺の散策、午後は日光



△日光江戸村にて

江戸村で江戸時代の風情を感じながら体験や買い物等を楽しみました。班別行動を通して、決まりを守り、グループの仲間と協力しながら楽しんでいる様子が見られました。この経験を生かし、卒業までの残りの小学校生活を充実させてほしいと思います。



△日光東照宮にて

12月の主な予定

- 2日(水) 集金日
- 3日(木)・4日(金) ※評価検討のため給食後下校
- 7日(月) 6年 租税教室
- 10日(木) ｽｰﾙｶﾝｾﾗｰ訪問日
- 11日(金) 5・6年 被爆体験伝承者講話
- 15日(火) 3年 万引き防止教室 学校保健委員会
- 17日(木) 修学旅行選定委員会
- 18日(金) 大掃除
- 24日(木) 2学期終業式 ※1月6日まで冬季休業

人権週間

1948年の国際連合総会において世界人権宣言が採択されたことを記念して、12月10日を最終日とする1週間(12月4日～12月10日)が人権週間と定められました。本校でも、この時期に人権集中学習に取り組んでいます。人権標語や人権作文、人権ポスターなどの作成を通して、人権について考える機会としています。教室や廊下に掲示してありますので、11月21日(土)の学校公開の際にご覧ください。

ところで、人権イメージキャラクターがあるのをご存知でしょうか。「人KEN まもる君」と「人KEN あゆみちゃん」で、漫画家やなせたかしさんのデザインによるものです。また、イメージキャラクターソングも存在します。法務省のホームページで聴くことができます。歌詞を紹介します。



(1) 光があふれる この街で だれかが泣いている 助けをよんでいる

ちいさな生命(いのち)でも 見すてることは できない できない

☆ 人権まもる まもる君 やさしいところ あゆみちゃん

み・ん・なで まもる 手を取りあって 世界をもっともっと しあわせにしよう

(2) あなたもわたしも おんなじね だれでも生きている あしたを夢みてる

だいじな生命(いのち)だよ いじめることは いけない いけない

☆ 人権まもる まもる君 やさしいところ あゆみちゃん

み・ん・なで まもる 手を取りあって 世界をもっともっと しあわせにしよう

(3) 悲しい涙が こぼれても いつかは乾くのさ みんなで助けあおう

すべての生命(いのち)には 生きる権利が あるんだ あるんだ

☆ 人権まもる まもる君 やさしいところ あゆみちゃん

み・ん・なで まもる 手を取りあって 世界をもっともっと しあわせにしよう